



にし やま
西山 みえ

けん と
県都クラブ

学校給食施設の改修整備の考え方は

問 平成30年度から実施される2校の給食提供の共同化による調理方式の変更は、ドライ化による作業工程の動線に困難があることや、不必要な設備がある等の声を生かしているのか。

また、共同化後の給食運営について、地域食を生かす考え、検収作業等の提出書類の統一、次世代の給食供給のための調理員の育成を、どう考えるか。

答 調理方式をドライ化すると、どうしても間仕切りが増え、コーナーが仕切られるため、動線が不便になってしまうところが出てくるのは事実である。このことについて、調理員によっていろいろな考え、要望もあることから、調理員、技能長などで、一般論としてどのようなものかをいいのを含めて確認している。

共同化後の運営については、学校行事等それぞれの学校に必要な時に、給食ができるようにしていく。

また、提出書類などは統一されることになる。

調理員の育成については、学校が夏休みの間に、各校で研修などを集中的に行っている。

●その他の質疑・質問●

- 平成28年度津市一般会計補正予算（第6号）民生費について、地域介護・福祉空間推進整備事業の内容と必要性の意図は
- 新津市10周年記念特別展覧会の反響と、データの生かし方
- 津市第3次健康づくり計画のポイントと強化目標の意図、計画の普及の考え方は
- 津駅前北部土地区画整理事業の現状と今後の考え方は など



▲介護現場での活躍が期待される介護ロボット



おか もと ち じゅん
岡本 知 順

いっ しん かい
一 津 会

空き家情報バンク制度を津市全域に拡大を

問 空き家は、農山村地域のみならず、今や市街地でも見受けられる。

空き家を放置すれば、多くの問題が発生し、地域の生活環境を乱すことになる。

現在、空き家の利活用として、美杉地域に空き家情報バンク制度があるが、この制度を津市全域に拡大する必要があるのではないか。

答 本市の空き家の状況は、昨年度に実施した空き家外観調査の結果、すぐに居住できるものと、簡単な修繕をすれば居住できるものを合わせた居住可能な空き家が、空き家全体の7割程度あり、市域全体に広く分布している。

建物は使用しないことで老朽化が一層進むため、将来的に管理不全となる空き家の増加を抑制する方策としての空き家情報バンクの活用は、賃貸や売却につながり効果的であると考えられる。

そのため、現在策定中の津市空家等対策計画において、三重県宅地建物取引業協会や全日本不動産協会などの関係団体と協力し、空き家情報バンク制度の市域全体への拡大に向け、しっかり取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- 地方創生の取り組みについて
 - これまでの取り組みと地方創生に向けた現状は
- 「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」について
 - 交付条件の緩和を求めよ
 - 県からの交付金と事業内容は
 - 県の残預金と使い道は
- 津のまち音頭と津市民歌の普及と位置付けについて
- 東京事務所について など



▲津市空き家情報バンクのホームページより